



▲備中櫓 2階 この空間に津山市内の類例がちりばめられています

先月号で、津山城のシンボルとしての備中櫓について書きました。今回は少し視点を変えて、備中櫓の復元整備の意義について考えてみます。復元整備した備中櫓は、400年前に森忠政が築いたものに限りなく忠実な復元をめざしました。しかし実際には、内装の仕上げなどは不明な点が多く、当時の櫓と「全く同じ」とはいきまませんでした。

もちろん、絵図や発掘調査、古写真に基づいて忠実な復元をめざしたことは当然ですが、内装を含む史料に現れてこない詳細な部分については、「復元」から一步踏み出して、「創造」に近い作業を行いました。特に史料に記載の少ない内部の詳細な仕上げは、江戸時代前期に建てられた建造物を参考にすれば方法がありません。そこで、全国各地の類例を調査するのですが、実は市内にも江戸時代前期の建物がかなり残っていることが津山城整備委員会の調査で明らかになりました。たとえば、森家の菩提寺である本源寺本堂の釘

津山城百聞録

～備中櫓復元の意義～

隠は江戸時代前期のものであり、なおかつ森家ゆかりの寺であるので、備中櫓の釘隠に、ほぼそのまま採用しました。また、備中櫓2階の唐紙の文様は、これも森家とゆかりの深い妙願寺の庫裏の襖の文様を採用しました。さらに建具は、長法寺に残る津山城に使用されていたと考えられる腰高障子をほぼそのままの形で使用しています。このように、備中櫓に採用された仕上げの細部については、市内に残っているものを多く採用しています。

さらにもう1つ興味深いのは、これまではあまり指摘されていなかったのですが、市内には江戸時代前期にさかのぼる建造物が予想以上に多いということが明らかになりつつあることです。このことは、備中櫓復元整備事業に伴って史料をことごとく調べた結果の副産物ともいえるべきものです。市内の建造物について新たな視点からの見直しが求められています。

話を備中櫓に戻すと、備中櫓の復元整備では、詳細の不明な部分ではできる限り地元の類例を、それもできる限り森家にゆかりのあるものを、という原則を持って決定してきました。ですから、結果的に備中櫓の内部の仕上げは、主として市内に残る江戸時代前期の建造物の集大成ともいえる仕上がりになっているのです。

繰り返しになりますが、備中櫓を復元することにより、新たに復元建造物を完成させただけでなく、市内に残る建造物に新たに光を当てる事にもなったのではないのでしょうか。

「備中櫓の復元整備」、それは過去の建造物の単純な再現ではなく、未来へ継承すべき新たな文化財の創造ではないかと考えています。

3月中のひとの動き

人口	111,149人(前月比△433)
男	53,021人(同△221)
女	58,128人(同△212)
世帯	42,539世帯(同△49)
転入	735人
転出	1,139人
出生	81人
死亡	110人

(4月1日現在)

PRINTED WITH SOY INK
R100
広報つやまは、環境保護のため占紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

つぶやき

編集室

中学のころから広報紙を愛読。投書が掲載されたことも(昭和61年5月号)。今までの広報紙は全部保管してましたが、あまりに邪魔なので今年3月にきれいに廃棄したところ。4月から広報担当になるうとは。(鉄)

収穫のあった自転車取材でした。自動車では外出しても室内にいるようなもの。五感で「津山」を感じるには絶好の機会。やっぱりいいですよ、津山って。また挑戦したいですね。時間、そして体力の許す限り…。(X)

マラソン大会では、カメラに向かって手を振っていく余裕の選手や地域の人とのふれあいを目にし、驚きながらもさわやかな気持ちになりました。撮影ポイントを教えてくれたお兄さん(?)、ありがとうございました。(e)

つやま 広報 5月



編集・発行

津山市企画部行政広報室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520
☎0868-32-2029 ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
☆広報つやまはホームページで閲覧できます
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
発行日 毎月10日
印刷 株式会社 津山朝日新聞社印刷部